

2026年6月10日

2026年度 奨励賞授賞理由

日本教育学会奨励賞委員会

【授賞論文】

小野明日美「1970年代米国の公教育の変容における「オルタナティブ・スクール教師養成プログラム」の意義 ―インディアナ大学による取り組みの分析を通して―」『教育学研究』第92巻、第2号、2025年、214-225頁。

【授賞理由】

本論文は、1970年代の米国インディアナ大学における「オルタナティブ・スクール教師養成プログラム（ASTEP）」を対象に、その実態と意義を明らかにしたものである。オルタナティブな教育を担う学校が公立学校制度「外」から制度「内」に移行することで、公立学校の多様性を増大させる試みとして結実する1970年代米国の公教育の動向を、今日の日本の教育政策・教育実践の動向に重ねて議論することができる良作である。

本論文は、論証の精緻性が評価された。現地調査による希少な一次史料や未公開資料が丹念に収集・検討され、当プログラムの背景や内容、成果の受け止めに至るまでが地道な研究手法によって掘り起こされ、描出されている。本論文はそれらを分析した力作であり、公立学校制度の「内」からの変革を重視したASTEPの特質を詳細な資料検討を通して明らかにしている。

加えて、本論文はこれからの教育学研究にもたらす貢献も大きいと評価された。本論文の射程は「公教育」や「オルタナティブ」という概念の再検討であり、それは今日の教育学においても関心の高い主題である。本論文では、オルタナティブな教育を制度内に組み込むことで旧態の教育を地道に変えようとする過程を重視するプログラムが実施されていたことが明らかにされ、その道程は今後の日本においても同様のアプローチへの期待感を抱かせるものと言える。また、本論文は現行の公教育制度を活用しながらいかに教育改革・改良が可能かを問うものであった。それは、一つの歴史事例の研究に留まらない、今日の公教育のあり方やオルタナティブ・スクールの位置づけ、教育改革における教員養成の役割等に多くの示唆をもたらすものと言える。

審査の過程では、当プログラムに対する当時の批判的な見解の検討や、当プログラムが終了に至った理由の詳細が不明であるとの指摘もなされた。しかし、これらは著者の注釈等において課題として既に自覚されているものであり、むしろこれらの課題への言及は本研究の将来的な発展可能性として捉えることができよう。

以上の通り、本論文の卓越した実証性を評価し、今後の教育学研究への貢献を期待し、本論文を研究奨励賞として強く推挙する。

以上